



←久我の杜に実習に来られた方々と一緒に記念撮影しました。

謹賀新年

12月のレクリエーション

- 12月3日 AM児童館来所
- 12月4日 光華女子大学吹奏楽部コンサート
- 12月9日 気功体操
- 12月12日、13日 京趣苑（洋服の出張販売）
- 12月15日 風柳会（日本舞踊、歌謡曲など）
- 12月17日 虹のメロディ
- 12月19日～12月24日 クリスマス忘年会
- 12月26日～31日 買い物
- その他の日は選択レクリエーション



1月のレクリエーションの予定

- 1月1日、2日 初詣
- 1月3日～7日 初釜
- 1月8日～11日 卓球パレー
- 1月12日～14日 言葉作りゲーム
- 1月14日 児童館来所
- 1月15日～21日 おやつ作り
- 1月21日 虹メロ
- 1月22日 言葉作りゲーム
- 1月23日 銭太鼓
- 1月24日、25日 図書館へ行こう
- 1月26日～28日 卓球パレー
- 1月28日 児童館来所
- 1月29日～31日 選択レク（折り紙か風船パレー）



新年明けましておめでとうございます！！今年もよろしくお祈りします！！

昨年は施設長や相談員が新しく替わり、変化の多い年で何かとご心配、ご迷惑をおかけしたかと思ひます。2012年は今年から新しく加わった理学療法士を含め、施設長、係長、相談員、介護士、看護師、共に力を合わせて、ご利用者のニーズに答え、満足度を高め、更に良いデイサービスセンターを目指して頑張りますので、今後ともよろしくお祈り致します。ご意見等ございましたらいつでもお申し付け下さい。

久我の杜デイサービスセンター職員一同

みどりの杜通信

新年1月号

京都福祉サービス協会
久我の杜デイサービスセンター
京都市伏見区久我東町 202-6
電話 (075) 931-8003

平成23年
12月のデイサービス



クリスマスのテーブルの飾り



おやつケーキ



Xマス玉絵完成



スタンドグラス



サンタマスクマン



クリスマス・忘年会
12月19日～12月24日



クリスマスじゃあ。メリー栗金とん



レディーサンタでおじやります



スリーアミゴス登場



熱々の鍋は、体が温まりますね。

昼食は、豆乳鍋、キムチ鍋、寄せ鍋、ちゃんこ鍋、鍋アラカルトで1週間過ごしていただきました。みんなで食べる鍋はおいしいですね。



おやつケーキ



クリスマスのテーブルの飾り



Xマス玉絵作成



12月浴室飾り



サンタですか？



忘年会は楽しむのよ。みんなで！



今年のクリスマスはどうかしら？



久我の杜クリスマス忘年会イェー



クリスマスプレゼントいただきました。



風柳会(ボランティアのみなさん) 12月15日



↑15名の方が来てくださり、素晴らしい踊りを見せてくださいました。優雅なひと時に酔いしれていました。

12月28日もちつき



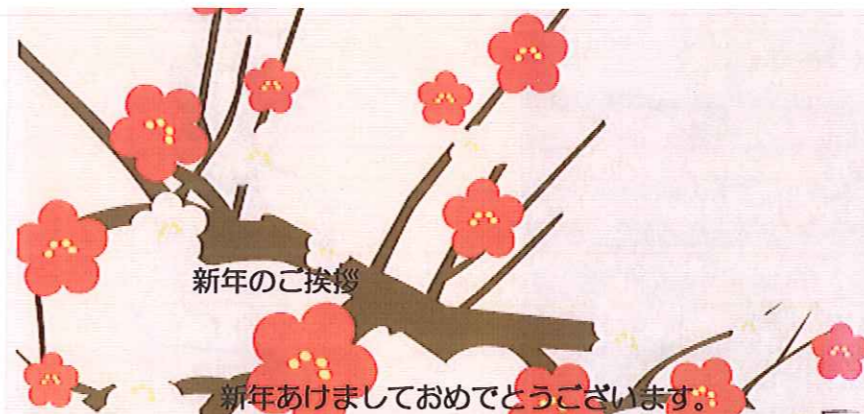
↑12月28日は、利用者の方々と餅つきをしました。3時のおやつも勿論つきたてのお餅でした。つきたてのおもちは、もちもちしていておいしかったですよ。

12月の工作作り



↑正月用のステンドフィルムを作りました。

↑ペットボトルの外側のフィルムでステンドグラスを作りました。ステンドフィルムなんです。綺麗でしょう？



新年のご挨拶

施設長 中島 慶行

新年あけましておめでとうございます。
旧年中は当デイサービスセンターをご愛顧いただき、誠にありがとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年は、東日本大震災をきっかけに、人と人との絆や家族の大切さについて再認識させられる年でありました。私たちも、いまいちど社会福祉の原点に立ち返り、自分たちの取り組みを見つめ直したいと思います。

高齢者介護の分野では、人の欲求をニーズ（利用者における客観的必要性）とデマンド（利用者の主観的要求・要望）とに分けて考えることがあり、一般的に「ニーズには応じる必要があるが、デマンドを受け入れすぎではならない」と言われています。入浴を例にとってみると、ニーズは「お風呂に入りたい」というものであり、デマンドは「どこどこ温泉に行きたい」というものになります。そして、介護保険サービスの供給量が有限である以上、すべてのデマンドに答えていくことは不可能であり、またすべきでないとされています。しかし、人の欲求は多種多様なので、ニーズとデマンドとにきれいに分けられるものばかりではありません。例えば、「好みのお湯の温度で浸かりたい」「お気に入りのシャンプーで洗ってほしい」「ゆったり浸かってリラックスしたい」といった思いは、ニーズと考えるべきでしょうか。それともデマンドと捉えるべきでしょうか。

佛教学の永和良之助教授は、マズローの「欲求段階説」を用いて自らの介護観を表現しています（右図）。

図の下の「生理的欲求・安全欲求」にあたる部分が介護の基本部分となりますが、人間は、生命や安全が満たされればその上位の欲求を求める文化的・社会的存在なので、高齢者も質の高い介護を受け、生命の維持・安全への欲求が満たされれば、より上位にある欲求の実現を求めるのは当然のことであり、その実現に向けて生活援助をしていくことこそが介護である、というものです。

社会学者の上野千鶴子氏は、『ケアの社会学』（2011）の中で、「人は、手に入るものしか望まない傾向があるので、選択肢にないものに対して個人が選好を表明することはめったにない。選択肢の少ない個人は、潜在能力からみて高いニーズを持っているにも関わらず、そのような選好を表明することなく、低い水準で満足する傾向がある」と述べています。

これらのことから、私たちは、例え現実の制約があるにせよ、可能な限りニーズをデマンドに近づける取り組みこそが、社会福祉の役割であり、また社会福祉法人の責務であると考えます。言うは易く、行なうは難しいところがありますが、上記のような方針で取り組んでまいりたいと思います。

今後ともご支援いただきますようお願い申し上げます。

